

社会科学学習指導案

日 時 2009年11月25日(水)
 生 徒 名寄市立名寄東中学校1年4組
 計29名
 指導者 教諭 愛 澤 純 一
 場 所 1年4組教室

- 1 単元名 第1章 身近な地域を調べよう 「名寄市の商業を調べよう」
- 2 子どもの実態と地理的分野で目指す子ども像

◆生徒の実態◆	
①社会科は好き?嫌い?	
・好き	15名
・どちらかというが好き	12名
・嫌い	2名
②地理と歴史ではどちらが好き?	
・歴史	17名
・地理	12名
③地理が好きな理由は?	
・地図帳を見るのが楽しいから	
・国名や都道府県を覚えるのが楽しいから	
④よく買い物に行くお店は?	
1位 ポスフル	
2位 西條	
3位 ラルス・マックスバリュー	

本学級は、男子17名、女子12名の明るく活発なクラスである。社会科に興味をもつ生徒が多く、発言も積極的する。しかし、統計資料の読み取りや課題解決では、資料や根拠をもとに考えていくことを苦手とする生徒が多い。左の生徒の実態は、学級のアンケートから結果をまとめたものである。

アンケートからクラスの大部分は、社会科が好きと答え、地理より歴史が好きである傾向がうかがえる。そこで、今回の授業では、生徒が興味や関心のもてる題材をもとに授業を構築していきたいと考える。

本単元である「身近な地域を調べよう」では、自分たちが生活している名寄市を学習対象とし、名寄市の商業について焦点化している。

商業に焦点化した理由は、アンケート結果からわかるように、生徒が一番利用しているのがポスフルであり、最近、名寄市にポスフルができたことで、地域の商業における変化や影響を生徒が実際に感じ取っていることが容易に予想されたからである。

本単元のねらいは、地理的分野における地図資料や統計資料の読み取り、グラフの作成といった基礎・基本的な資料活用や判断能力を身に付けさせることである。そこで、本題材である名寄市の商業については、新旧の航空写真や地形図から名寄市の変化を視覚的に理解させた上で、「住宅」や「農業」が新旧の地図の比較で大きく変わっていることに気づかせる。また、他市町村から名寄市に訪れる人口流入の資料や名寄市の商店数や売り上げ、雇用の変化などをグループごとで追究し、複線化をはかりながら、まとめや発表活動を通して、これらの大きな要因が名寄市の「商業」の変化であることに着目させたい。また、現在の名寄市の「商業」が抱える課題やその克服のための努力や工夫が行われていることにも目を向けさせることで、より良い社会を目指す社会参画の意識の芽もたせる授業も意識して構成している。本単元で学んだ資料活用能力は、「都道府県」「世界の国々」の調査にとって生かされ、ここで培った社会参画の芽は、2学年の「魅力ある地域づくり」、3学年の「地方行政」へとつなげていきたい。

地理的分野で めざす子ども像	広い視野から地域を多面的・多角的に考察し、理解するとともに、人間の営みへの共感から積極的に関わろうとする子ども。
本単元で めざす子ども像	名寄市の写真や地形図から名寄市の変化に関心を持ち、商業に関わる資料を読み取り、グラフを作成し、商業の現状や今後の発展の方法を考えることができる。

3 研究の視点との関わり

(1) 人間の営みに絞り込む教材化

本単元で扱う名寄市の「商業」は、かつて駅前周辺の商店街が賑わい、他市町村からも多く訪れていた。現在は、少子高齢化社会の到来とともに人口がさらに大きな都市へと流出するようになり、かつてほどではなくなってしまった。しかし、近年ポスフルの進出に伴い、他市町村からの昼間の人口流入が見られ、商店数の減少は見られるものの、雇用は増えている。また、地元企業であるデパート「西條」も高い年齢層をターゲットに売り上げを工夫し、さらに新規事業を展開して工夫や努力がある。生徒たちにとって現在の名寄市の変化は敏感に感じ取っており、様々に提示される航空写真や地図資料、統計資料は実感をもって学習に取り組むことができ、今後の名寄市の「商業」の行方にも関心をもって考えられる題材として教材化した。

【実態とめざす子ども像、基礎基本を重視した教材化の構造図】

学習指導要領の目標と内容

<目標>

(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

<内容>

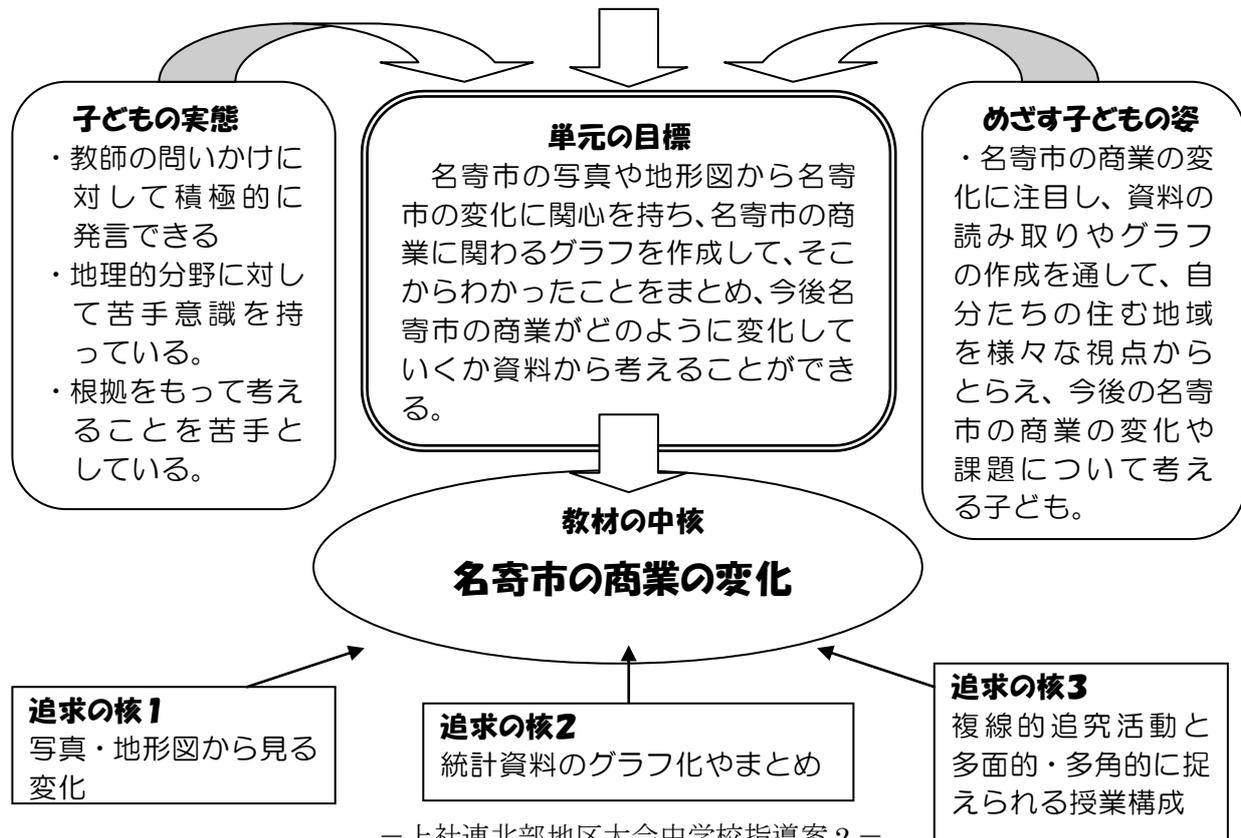
(2) 地域の規模に応じた調査

ア 身近な地域

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。 ▽

定着させたい基礎的・基本的な内容

- ① 写真や地形図から、名寄市の変化を読み取ること。
- ② 名寄市の商業に関わる統計資料をもとにグラフを作成すること。
- ③ 意見交換を通して、自分の考えをまとめること。
- ④ 名寄市の「商業」が今後どのように変化していく、自分たちの作成したグラフから地域の課題を考えること。

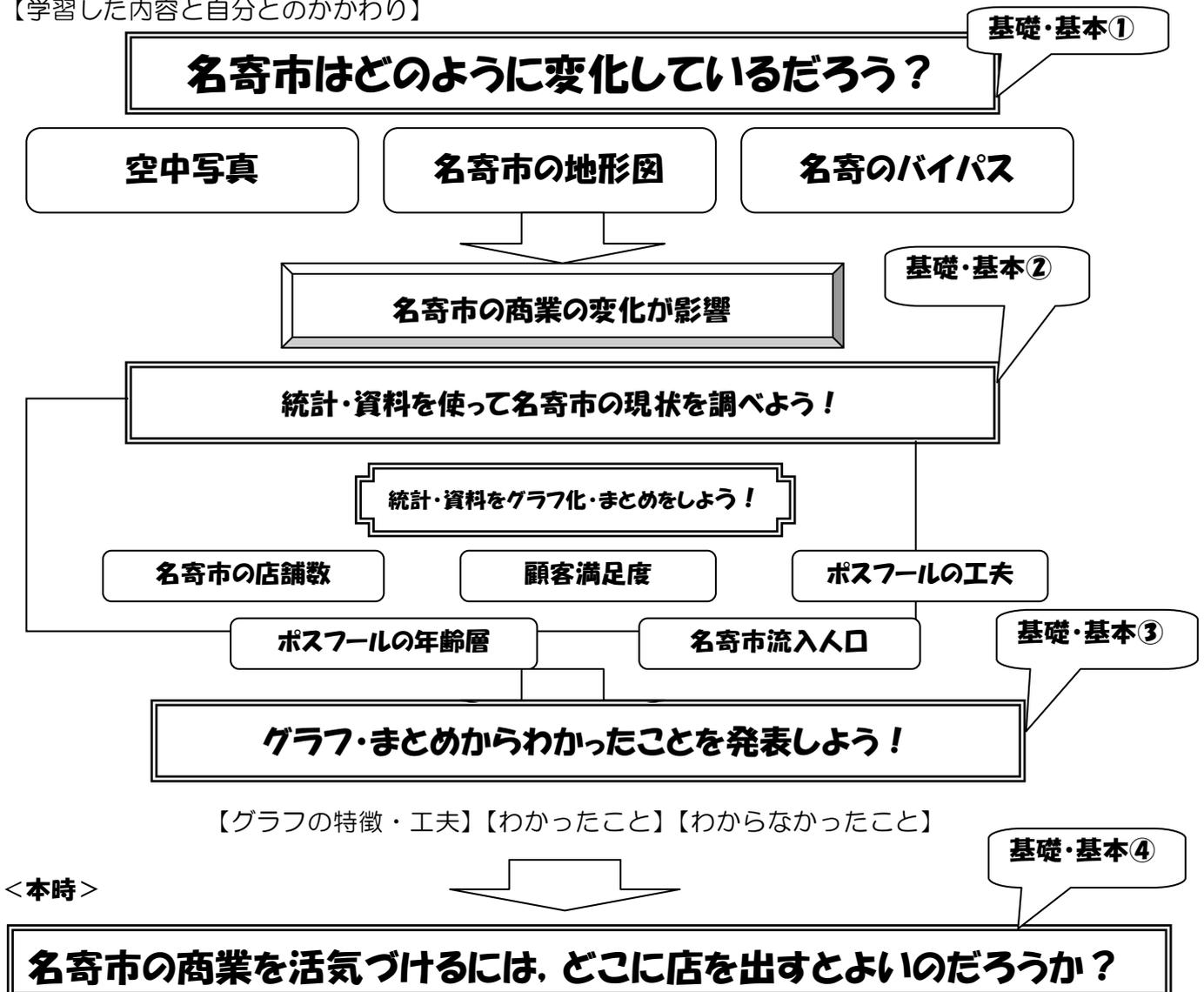


(2) 事象と自分とのかかわりを深め、学びごとを自分ごととする学習の構成

名寄市にできたバイパスによって、他市町村からの流入が容易になったこともあり、名寄市に人が集まってきていることを生徒は、肌で実感し、その背景が商業にあることは想像に難くないことが教材化の理由であり、名寄市が抱える課題について考える場合も「商業」に焦点化することで容易に取り組めるように学習を構成した。

追求の核1では、ふだん目にする名寄市の町並みが新旧の空中写真を比較することで一目瞭然で変化を感じ取り、地図によってその細かい変遷を見ることができる。追求の核2では、名寄市の「商業」をさまざまな視点から考察できるように、5つの統計・資料（名寄市の店舗数、顧客満足度、ポスフールの工夫、ポスフールの年齢層、名寄市流入人口）を用意した。グラフ化については表現方法の工夫を子どもたちに考えてもらうが、グラフの活用については苦手な生徒も多いので、積極的に支援を行いたい。追求の核3では、グループでの意見交換をおこない、地理が苦手な生徒も名寄市に住む地域住民として、名寄市の「商業」の取り組みの工夫から名寄市が抱える課題に気づくことができるようにしたい。

【学習した内容と自分とのかかわり】



(3) 社会を見つめ、関係を築く、社会科授業の評価

- ① 既知の見方や考え方のズレを生み、新たな疑問を生む場の設定
 名寄市内の商店が厳しい状況を認識した上で、どのようにお客を呼び入れるかという課題からどんな客層を狙い、どんな立地条件が良いかを考える場面を設定した。これにより、前時の統計・資料をもとに考えることができ、少子高齢化や人口流出といった名寄市が抱える現状の課題についても気づくようにした。
- ② 社会の一員としての目覚めを引き出し、地域の良さを認識する場の設定
 活気ある名寄市の商業について考えさせるテーマの背景には、名寄市の商業の変化を子どもたちは目の当たりにしながら生活を送っているところにある。名寄市の変化を理解し、市の「商業」がより良く発展してほしいという願いを持たせ、地域の今後の課題については、思いつきや憶測ではなく、根拠を持って考える場面を設定した。

4 単元の指導計画と評価計画

第1章 身近な地域を調べよう 「名寄市の商業を調べよう」(本時 9/9)

時	学習過程	おもな学習活動	教師のはたらきかけ	評価規準
3	事象との出会い	・名寄市の地形図や写真を見て、名寄市の変化について気づいたことを発表する。 ・地形図の基礎(縮尺・等高線・地図記号)を学習する。	・町並みの変化を比較しやすいよう空中写真を提示する。 ・名寄市の地形図を利用して地形図の基礎が理解できるようワークシートを工夫する。	関心 名寄市の写真や地形図を観察し、気づいたことを発表する。(発言) 知識 地形図の基礎(縮尺・等高線・地図記号)を理解することができる。(ワークシート)
1	課題設定	・名寄市の新旧の地形図を比較して、住宅・農業・人口・商業の変化を読み取り発表する。その中でも商業はどのように変化したか予想し、発表する。	・一番変化が著しい徳田区域やバイパスの完成に注目させるような資料を提示する。	思考 名寄市の変化について気づいたことを発表し、商業がどのように変化してきたか予想することができる。(発言・ワークシート)
2	追求・解決 調査活動 制作活動	・5つのグループに分かれ名寄市の商業・人口に関する統計資料を読み取り、グラフ化・データ化・文章化などを工夫してまとめる。	・5つの種類の資料を提示し、名寄市の商業・人口の現状がグラフ化できるよう助言する。	技能 統計資料を読み取り、グラフに表現することができる。(観察・制作物)
2	発表・意見交流・課題解決	・作成したグラフを発表する。 ・発表後5つのグラフを整理するためにまとめる。	・発表の手順などを説明し、わかったことや疑問に思ったことを書かせるよう助言する。	技能 自分たちの作成したグラフをしっかりと発表することができる。(観察・発言)
本時	発展・深化	・名寄市の現状から名寄市のどこにどんな店を出店するかグループで考えて発表する。 ・西條の駅前計画から今後の名寄市の発展について考える。	・地形図、人口、商業における現状から各グループで理由を考えられるよう助言する。 ・西條の駅前計画について資料を提示する。	思考 地形図やグラフを用いて、どこにどのような店を出すべきかグループで考え、発表することができる。(発言・ワークシート)

5 本時の目標

(1) 本時の目標

○作成したグラフや資料から名寄市の商業における現状や問題点を理解し、名寄市内の発展のために地域の企業がどのような工夫をしているのか、考えることができる。

<思考・判断>

(2) 具体的な手だて ～北の人間力に関わって～

- ① 地形図、グラフなどの既習事項を活用して、どこに店を出すと良いか考える。
- ② 地元の企業「西條」が駅前開発計画をしていることを提示し、名寄市の発展のために地域の企業が努力していることを考える。

(3) 本時の展開 (8 / 8時間)

	学習内容・思考の流れ	教師の関わり	評価の規準と支援
課題把握	<p>前時の確認</p> <p>1. 前時で作成したグラフから商業における現状や問題点を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 店舗数の減少 ② 中心部に対する満足度 ③ ポスフールの工夫 ④ ポスフールの年齢層 ⑤ 名寄市への流入状況 </div> <p>・名寄市内の商店が厳しい状況にある。</p>	<p>○前回の発表とグラフから現状・問題点を問う。</p>	<p><支援></p> <p>現状や問題点を考えられない生徒には、グラフや資料のヒントを出しながら問いかけをする。</p>
	<p>今日の課題 名寄市の商業を活気づけるには、どこに店を出すとよいのだろうか？</p>		
課題解決	<p>2. 個人で場所と理由を簡単に予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・徳田 ・バイパスの近く ・国道沿い ・駅の近く </div> <p>3. グループになり、場所と理由を1つ考える。</p>	<p>○今までの既習事項(地形図、グラフ)を活用させ、場所と理由を予想させる。</p>	<p>思考既習事項から、名寄市のどこに店をだすべきか考えることができる。</p> <p><支援>話し合いにうまく参加できない子どもには、考えを整理できるよう助言する。</p> <p>思考地域の企業の工夫を考えることができる。</p>
	<p>4. グループで決定した場所を黒板の地図に貼り、理由を発表する。</p> <p>5. 地元企業「西條」が名寄駅横に新たな事業を計画していることを知る。</p>	<p>○駅横開発の新聞記事を提示</p> <p>○名寄市の年齢別人口割合のグラフを提示</p>	
整理	<p>まとめ：名寄市は、中心街の活性化のため駅横開発を行い、高齢者の方々に喜んでもらえるよう工夫をしている。</p>		
	<p>6. 学習内容のまとめをワークシートに書き込む。</p>		

